

■ 整備優先度の検討について（案）

草津川跡地の整備事業を計画的かつ確実に推進していくため、まず、施工性や関連事業・関係機関との調整などを考慮した整備優先度を設定する必要がある。

整備優先度は単一区間を比較し設定するのではなく、以下に示すとおり土量配分を考慮した複数区間を一つのパターンとして設定する。

土量配分による整備パターン

草津川跡地の整備には大規模な造成を伴い、土量配分を十分考慮した施工範囲の決定が重要となる。また、造成に必要な土は原則場内利用とするため、土量配分量を考慮した切土区間・盛土区間の双方を施工範囲として定める必要がある。

切土区間は④・⑤・⑥、盛土区間は②・③でありそれぞれを組み合わせると概ね以下に示す3通りとなる。

区間⑤・⑥の切土は国道1号平面化を含む前後区間が主体であり、両区間を同時施工する必要がある。そこで発生した土は盛土区間である②または③へ運ぶこととなり、ここでパターンA-1、A-2の2通りが考えられる。（下図参照）

区間④は切土量が多く、ここで発生した土は盛土区間②・③双方へ運ぶこととなり、パターンBの1通りが考えられる。（下図参照）

盛土区間（②・③）は単独での施工はできないため、パターンの設定ができない。

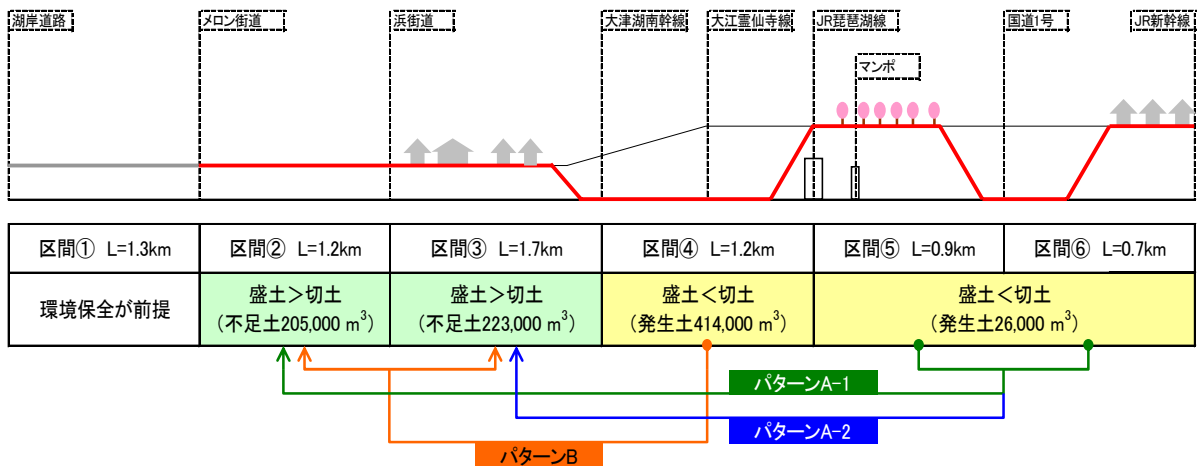


図 整備パターンイメージ

整備による効果、整備における課題

土量配分における整備パターンにもとづき、整備により期待できる効果や整備事業を円滑に推進していく上での問題や課題を整理する。

整備による効果は整備の優先性を決める基本条件と捉え、効果の高い区間・箇所から優先的に整備することを基本と考える。

整備優先度

草津川跡地は各区間で特性を活かした計画としている。そのため、整備による効果を評価したが、各区間共に市政への影響は多大であり、効果という面では大差がないものとする。

したがって、第1期整備期間が5年間ということもあり、整備が早期にできるよう、課題の少ない区間から優先的に進めることとする。また、課題が多い区間については優先整備地区の整備と並行して課題解決に向けた準備を行うものとする。

表 整備優先度の検討一覧（案）

平面・標準断面						
パターン	整備パターンA-1 切土区間 → 盛土区間 区間⑤、⑥ → 区間②		整備パターンA-2 切土区間 → 盛土区間 区間⑤、⑥ → 区間③		整備パターンB 切土区間 → 盛土区間 区間④ → 区間②、③	
整備による効果	<p>【区間⑤、⑥】</p> <ul style="list-style-type: none"> 桜並木や堤防存置などを活かした歴史空間の整備により花見や宿場まつりなど草津市を代表する様々なイベントに対応でき、にぎわいの創出が早期に期待できる 中心市街地の中でも特に人口集中が著しい区間であり、整備された広場や道路空間は災害時には一時避難地や災害拠点としての大きな役割が期待できる 国道1号の平面交差化を推進することで都市中心部における防災面の強化が図れるとともに、草津川河川防災ステーションと連携することにより、隣接市域も含めた広域防災拠点としての発展的機能も期待できる 道路は都市中心部の交通渋滞を緩和する役割を果たすだけでなく、観光駐車場などと連携することで商店街や駅前への車両流入の抑制が期待でき、さらに、歩行者天国化など交通規制できる仕組みを整えることで大規模なイベント空間としての利用も期待できる 周辺の商店街や商業施設と連携することで利用者の回遊性が高まり中心市街地の活性化が期待できる <p>【区間②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農園と隣接する周辺地域で建設を予定している学校給食センターの整備を一体的に事業推進することで、学校への給食配給以外に、農園実習と連携した食育文化の醸成や災害時の炊き出し拠点など様々な活用が期待できる 		<p>【区間⑤、⑥】</p> <ul style="list-style-type: none"> 桜並木や堤防存置などを活かした歴史空間の整備により花見や宿場まつりなど草津市を代表する様々なイベントに対応でき、にぎわいの創出が早期に期待できる 中心市街地の中でも特に人口集中が著しい区間であり、整備された広場や道路空間は災害時には一時避難地や災害拠点としての大きな役割が期待できる 国道1号の平面交差化を推進することで都市中心部における防災面の強化が図れるとともに、草津川河川防災ステーションと連携することにより、隣接市域も含めた広域防災拠点としての発展的機能も期待できる 道路は都市中心部の交通渋滞を緩和する役割を果たすだけでなく、観光駐車場などと連携することで商店街や駅前への車両流入の抑制が期待でき、さらに、歩行者天国化など交通規制できる仕組みを整えることで大規模なイベント空間としての利用も期待できる 周辺の商店街や商業施設と連携することで利用者の回遊性が高まり中心市街地の活性化が期待できる <p>【区間③】</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣接する弾正公園（都市公園）の機能を充足させるとともに、身近な広場・散策路等の整備により、近年の社会ニーズのひとつでもある健康志向への早期対応が図れる 		<p>【区間④】</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣接する大規模空地（市営住宅跡地など）や野村運動公園周辺などと一体的な土地利用を図ることでスポーツ機能の充実や魅力的でにぎわいのある空間創出が期待できる 民間活力を積極的に活用することにより質の高い公共サービスの提供や効率的で経済的な管理運営が期待できる <p>【区間③】</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣接する弾正公園（都市公園）の機能を充足させるとともに、身近な広場・散策路等の整備により、近年の社会ニーズのひとつでもある健康志向への早期対応が図れる <p>【区間②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農園と隣接する周辺地域で建設を予定している学校給食センターの整備を一体的に事業推進することで、学校への給食配給以外に、農園実習と連携した食育文化の醸成や災害時の炊き出し拠点など様々な活用が期待できる 市民農園の整備により東西の市民交流の拠点が生まれ、周辺農業従事者とのふれあいを通じて農業文化の伝達や発展が期待できる 自然広場の整備により子供たちが身近な自然にふれあえる機会が増え、水や緑の大切さを学ぶことで自然環境への意識向上が期待できる 	
評価	<p>・防災性、中心市街地・にぎわいへの貢献など効果は大きい</p>		<p>・防災性、中心市街地・にぎわいへの貢献など効果は大きい</p>		<p>・スポーツ、市民の健康、住環境への貢献など効果は大きい</p>	
整備における課題	<p>【区間⑤、⑥】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国道1号の平面交差化については、関連事業・関係機関との調整が必要であるが、特に国道1号の平面化は草津川跡地整備の要であり、国との協議・調整を積極的に推進し、早期事業化を図る必要がある 		<p>【区間⑤、⑥】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国道1号の平面交差化については、関連事業・関係機関との調整が必要であるが、特に国道1号の平面化は草津川跡地整備の要であり、国との協議・調整を積極的に推進し、早期事業化を図る必要がある <p>【区間③】</p> <ul style="list-style-type: none"> 弾正公園の機能充足については、区間④の野村運動公園周辺などとの役割分担を明確にしながら計画を進めていく必要があり、区間④の整備計画との連携が不可欠である。 		<p>【区間④】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模空地（市営住宅跡地など）との一体的で魅力的な土地利用（まちづくり）を図るためには民間活力の導入も視野に入れたより具体的で計画的な検討が必要である 野村運動公園周辺においては区間③の弾正公園との役割分担を明確にしながら草津市のスポーツ拠点にふさわしい計画立案が必要であり、そのためには市民のスポーツニーズの把握などの十分な調査が必要である 既存公共施設の再配置・再整備などの検討が必要である <p>【区間③】</p> <ul style="list-style-type: none"> 弾正公園の機能充足については、区間④の野村運動公園周辺などとの役割分担を明確にしながら計画を進めていく必要があり、区間④の整備計画との連携が不可欠である。 	
優先度	<p>・整備における課題は少ない</p> <p style="text-align: center;">整備優先度 1</p>		<p>・整備における課題が多い</p> <p style="text-align: center;">整備優先度 2</p>		<p>・整備における課題が非常に多い</p> <p style="text-align: center;">整備優先度 3</p>	